

農技セ第6515号
平成27年8月14日

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成27年度農作物病害虫発生予察情報について

平成27年度農作物病害虫発生予報第7号を発表したので送付します。

平成27年度農作物病害虫発生予報第7号

平成27年8月14日
徳 島 県

I. 果樹

カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査(スダチ)では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率が16.3%、果実発病度が0.4)。
- (2) 8月13日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝を極力除去する。また、せん定枝は園外に持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率が81.3%で、平年(52.4%)に比べてやや高めの発生であるが、寄生葉率は10.6%で、平年(10.3%)並の発生である。
- (2) 8月13日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率が75.0%で、平年(49.7%)に比べてやや高めの発生であるが、葉の発病度は2.2で、平年(1.6)並の発生である。
- (2) 8月13日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行なう。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率は87.5%、寄生葉率は25.3%であり、平年(50.0%、8.7%)に比べて高めの発生である。
- (2) 8月13日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生の多い園では収穫後に防除を行なう。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月下旬から8月上旬における交信攪乱用フェロモン剤の未設置園(鳴門市大麻町桧, 川崎, 三俣)でのフェロモントラップ誘殺数は、平年より少なめに推移している。

月半旬	鳴門市大麻町桧			鳴門市大麻町川崎			鳴門市大麻町三俣		
	2015年	2014年	平年	2015年	2014年	平年	2015年	2014年	平年
7.4	21	54	67	欠測	11	7	0	5	4
7.5	9	61	82	11	6	12	0	15	8
7.6	53	73	125	8	7	28	7	4	3
8.1	25	58	181	3	12	25	3	9	17
8.2	12	38	172	1	6	24	6	15	26
8.3		61	147		17	24		9	17

- (2) 8月13日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 収穫前の薬剤防除を徹底する。
- (2) 被害果はシンクイムシ類の発生源となるので、早急に処分する。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月下旬～8月上旬における勝浦町の予察灯への誘殺数は、ツヤアオカメムシについては、7月5半旬まで平年よりやや多めに推移していたが、7月6半旬以降平年に比べ少なめで推移している。また、チャバネアオカメムシについては、平年より多めで推移している。

(2) 7月下旬～8月上旬における上板町の予察灯への誘殺数は、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに平年並で推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	浦					上板				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年
7.4	83	58	15	145	45	19	14	3	13	7
7.5	73	64	3	131	39	13	11	1	4	4
7.6	43	98	29	234	71	11	11	6	4	5
8.1	17	468	99	127	123	6	3	4	1	4
8.2		228	195	280	151		2	12	6	5
8.3		205	23	429	264		11	2	6	7

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	浦					上板				
	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年	2015年	2014年	2013年	2012年	平 年
7.4	251	18	6	34	22	51	59	10	449	76
7.5	231	22	3	40	25	33	52	7	634	82
7.6	396	87	15	65	47	43	47	8	198	40
8.1	259	194	12	77	61	25	13	8	94	25
8.2		389	66	71	94		22	27	21	16
8.3		289	6	208	114		79	13	10	25

(2) 8月13日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なくと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 果樹カメムシ類は夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにして下さい。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。